

## 「新学術領域研究（研究領域提案型）」の見直しについて

- 「新学術領域研究（研究領域提案型）」（以下、「新学術」という。）については、科研費改革の本格実施を控えた平成 27 年 6 月に「科研費大規模研究種目の在り方の検証等について」が研究費部会から示され、審査部会においてこれまでの成果・課題の検証が行われ、平成 28 年 2 月に「科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」の成果・課題について」が取りまとめられた。
- 本検証では、「新学術」の採択領域の領域代表者へのアンケートの回答から、分野・機関の枠を超えた実質的な協力・連携体制の構築や、若手研究者の研究活動・水準の向上等について評価される一方、以下の課題が指摘されたところ。
  - ①新領域と既存領域のバランス
  - ②領域の規模と成熟度に応じた審査
  - ③公募研究の予算・採択件数の固定化・重複制限の緩和措置等により、公募研究の採択率の全体的な低下、領域間の採択率の大きな乖離
  - ④領域運営における機動性の確保
  - ⑤真に新たな領域を実質 4、5 年で創成すること、新領域の持続的展開を図るための大型外部資金等への展開の困難性
- また、平成 28 年 12 月に学術分科会においてとりまとめられた「科研費による挑戦的な研究に対する支援強化について」では、「新学術」について、上記の検証を踏まえ、日本学術振興会への一元化を進めることも視野に入れ、将来的な在り方を検討することが必要とされているところ。
- これを踏まえ、「新学術」の見直しについては、日本学術振興会の次期中期目標期間（平成 30～34 年度）における実行に向けて、本年中を目途に見直しの方向性をとりまとめることが必要。

## (参考)

### 「科研費による挑戦的な研究に対する支援強化について」

(平成 28 年 12 月 20 日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

#### 2 研究種目の見直し

##### (1) 種目体系の在り方

##### ②新たな種目体系のイメージ

- ・なお、「新学術領域研究」については、「科学研究費助成事業『新学術領域研究（研究領域提案型）』の成果・課題について」（平成 28 年 2 月 24 日 科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会）を踏まえ、現行種目の意義・効果を十分確保しつつ、先行実施する「挑戦的研究」の効果等を見極めながら、将来的な在り方を検討することが必要である。

#### 3 今後の検討課題

##### (1) 学術分科会における対応

##### ②「新学術領域研究」の見直し

- ・「新学術領域研究」については、前述のとおり、平成 30 年度の審査システムの見直し及び本報告書の提言、効果等を踏まえて具体化を図っていく必要がある。また、その実施体制については、現在、交付業務を除き、文部科学省が直接業務を行っていることに鑑み、審査の一体的な改善、業務の効率化、利便性の向上を図る観点から、日本学術振興会への一元化を進めることも視野に入れ、中長期的な視点から更に検討を深めていくことが適当である。
- ・具体的な見直しの時期については、日本学術振興会の次期中期目標期間（平成 30～34 年度）を見据え、平成 32 年度助成（平成 31 年 9 月公募）を目標とすることが考えられる。